

かがわ総合リハビリテーションセンター

成人支援施設 生活訓練における 外出訓練の取り組み

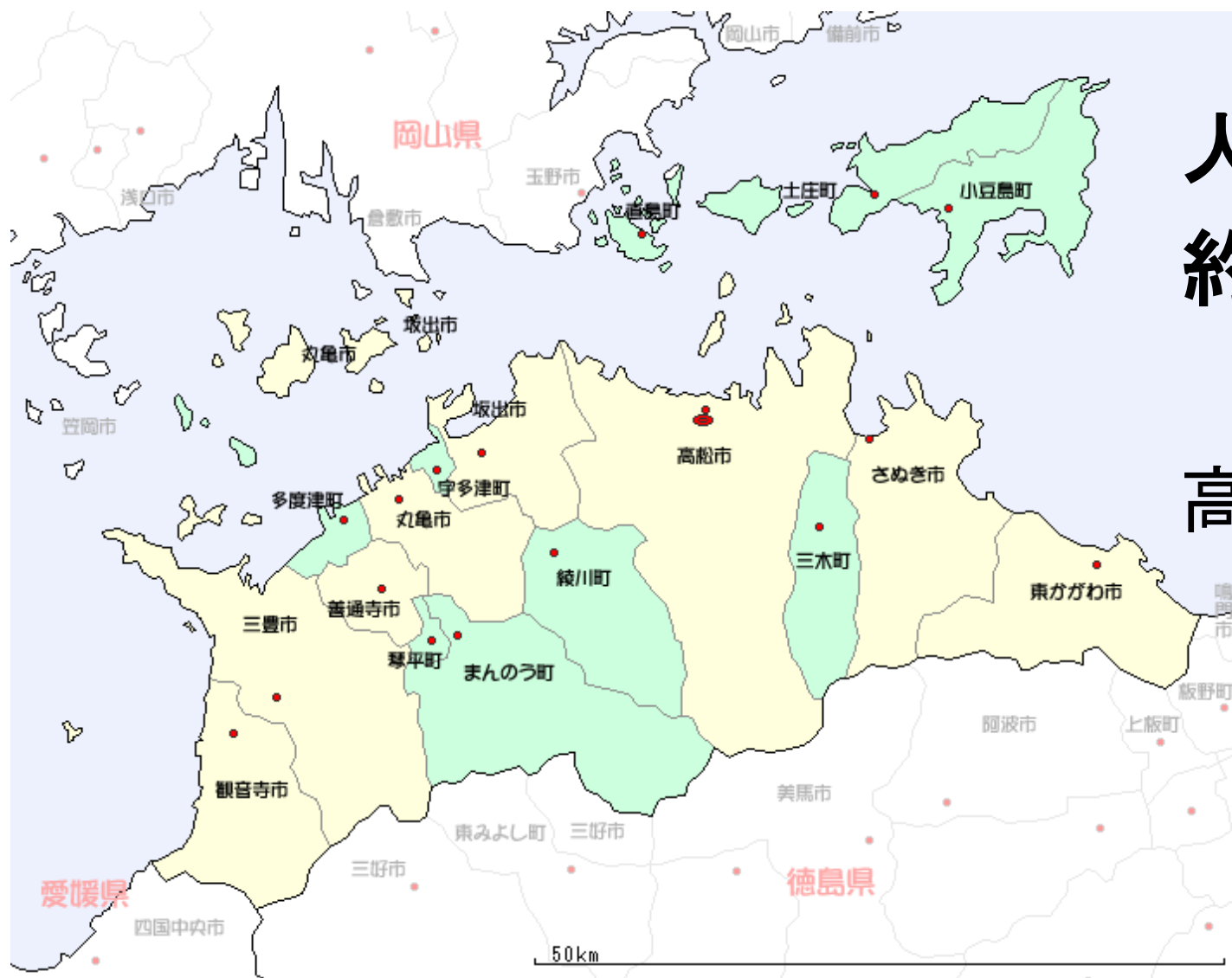
生活訓練担当 生活支援員
北村 嘉良子



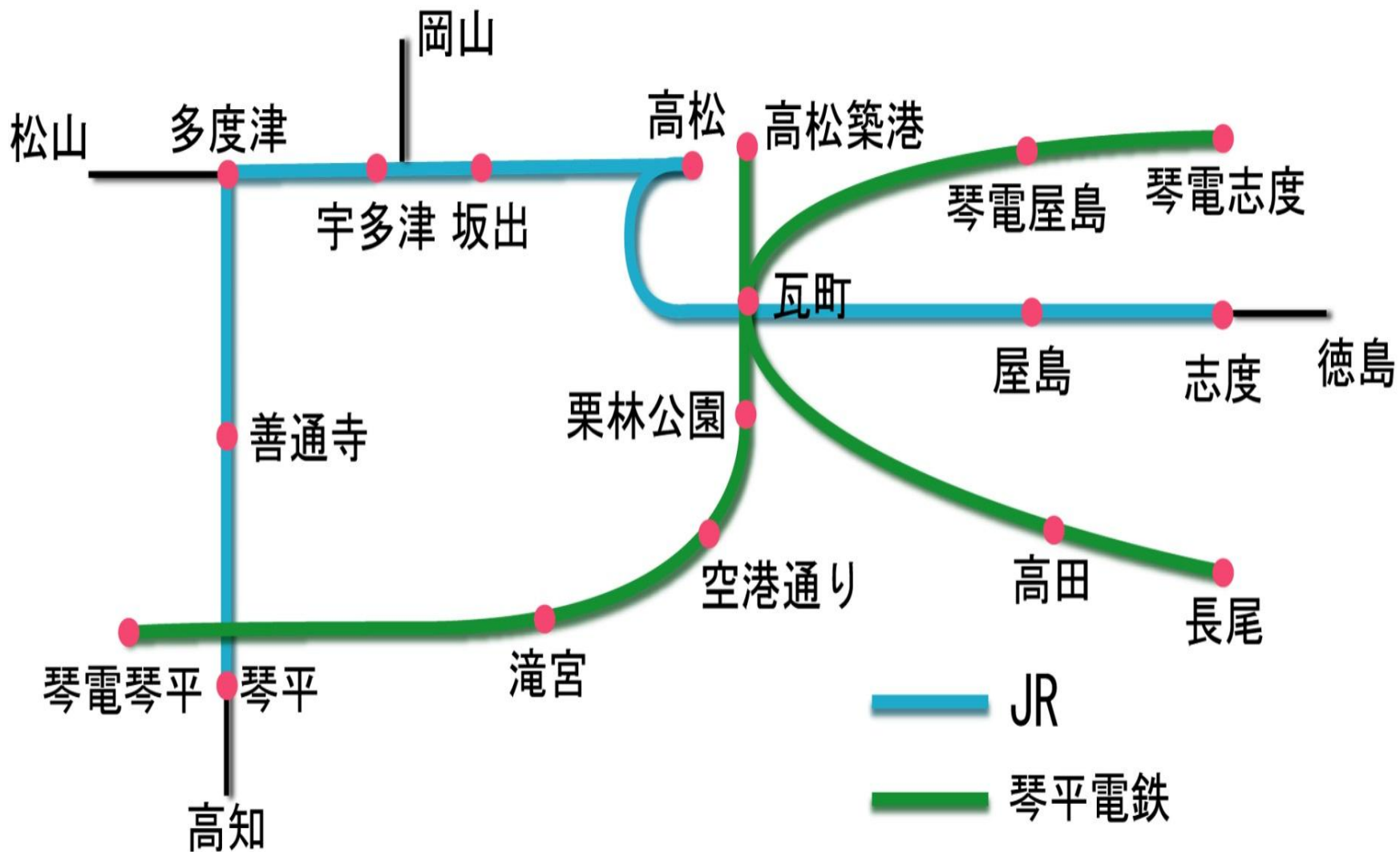
香川県

人口
約100万人

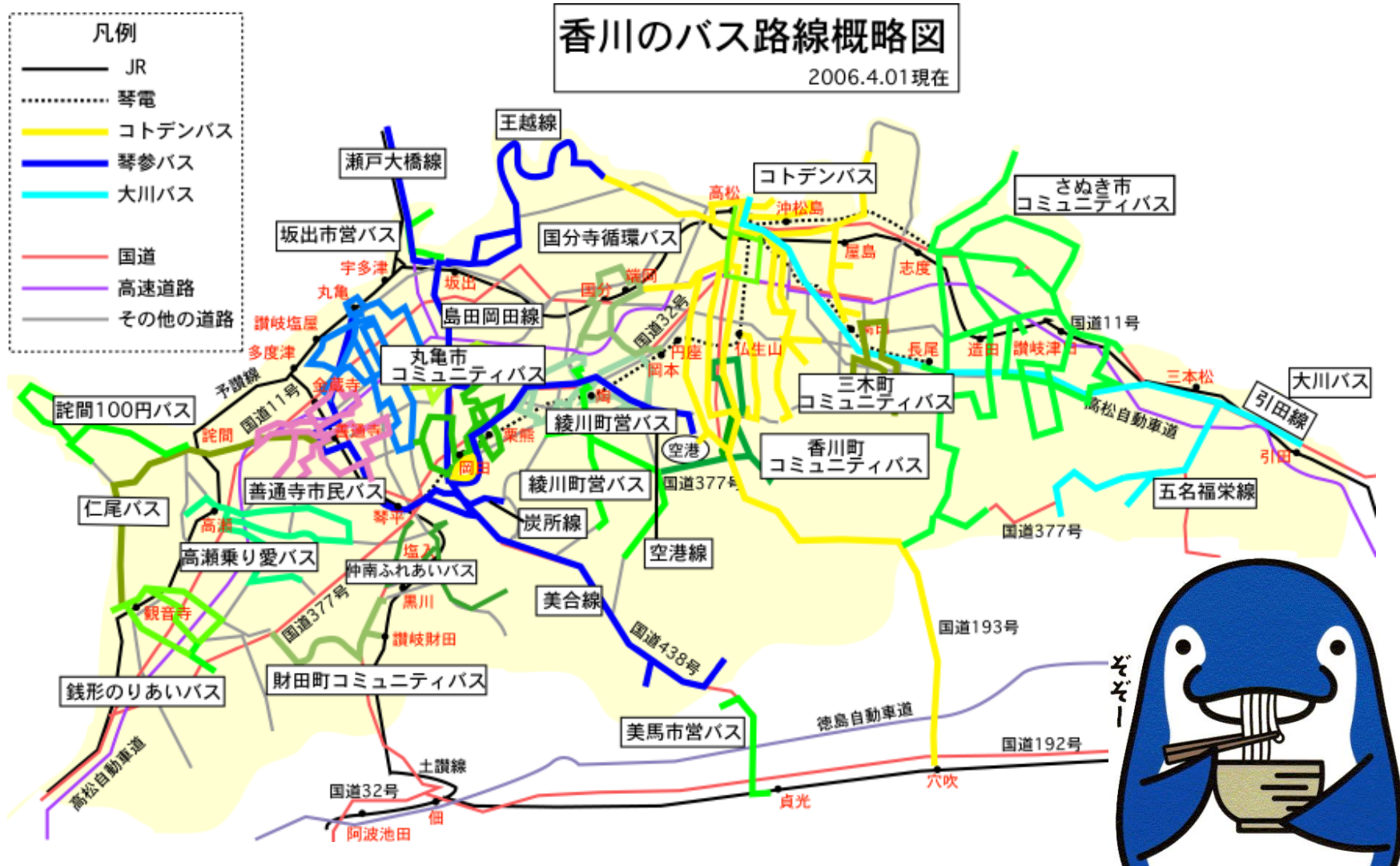
高松市
約42万人



香川県のJR・私鉄(琴平電鉄)



香川県の路線バス



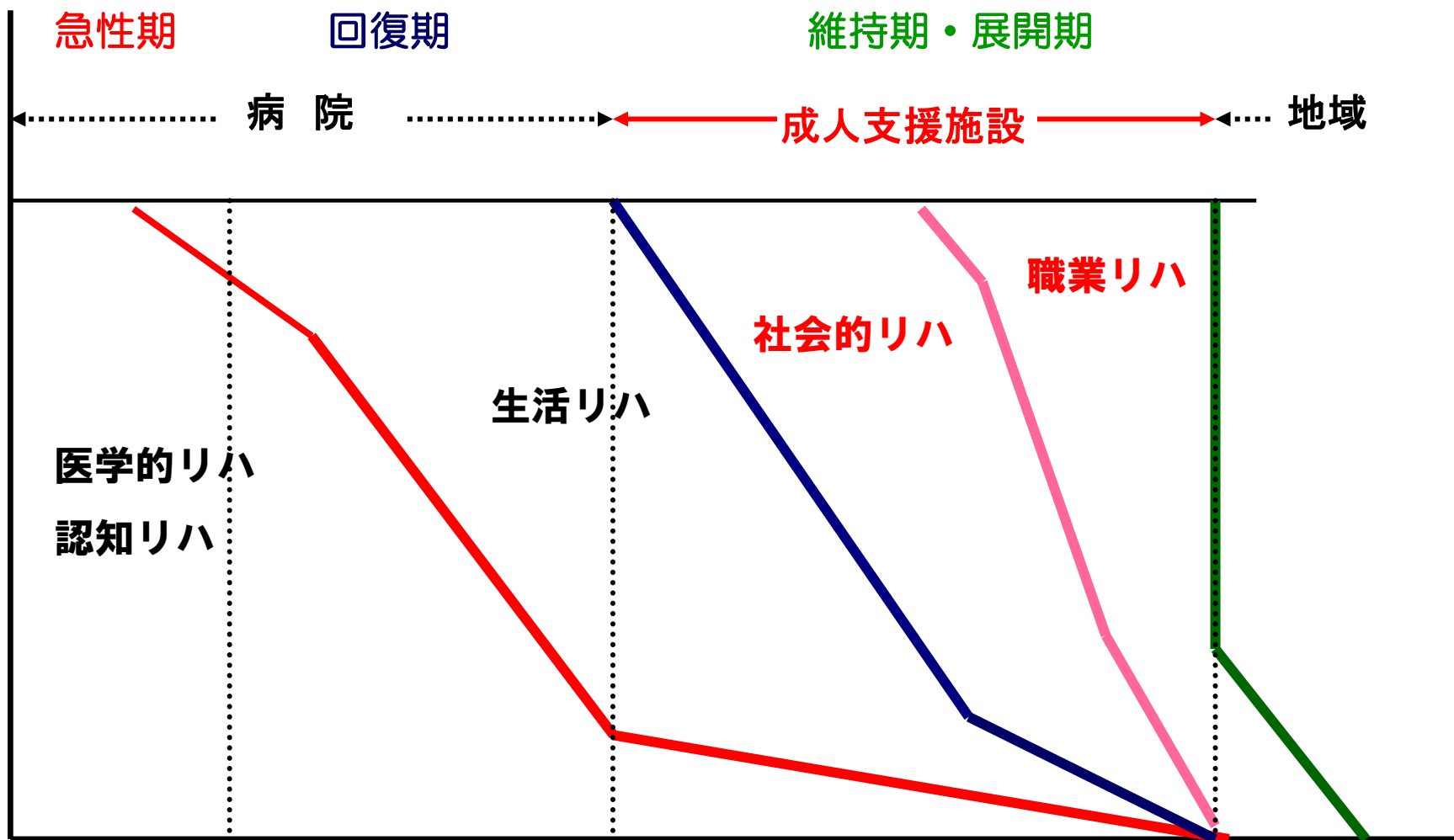
かがわ総合リハビリテーションセンター

高松市田村町



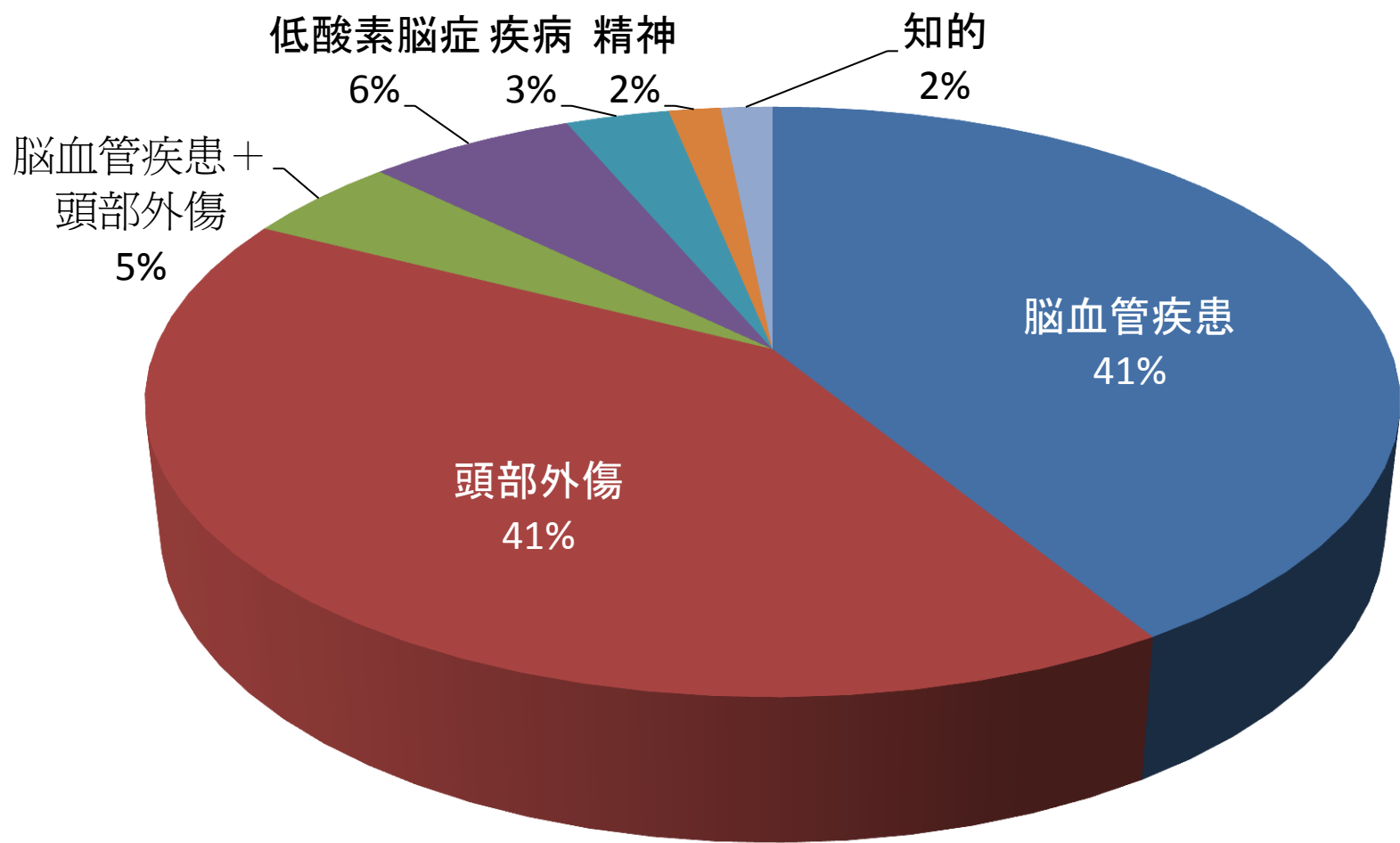
- 病院 ○こども支援施設 ○療養介護施設
- こども発達支援センター ○成人支援施設
- 福祉センター ○高次脳機能障害相談窓口
- 香川県発達障害者支援センター「アルプスかがわ」
- 障害者生活支援センターたかまつ
- 香川県障害者福祉相談所・障害者権利擁護センター

リハビリテーションの流れと当施設の位置



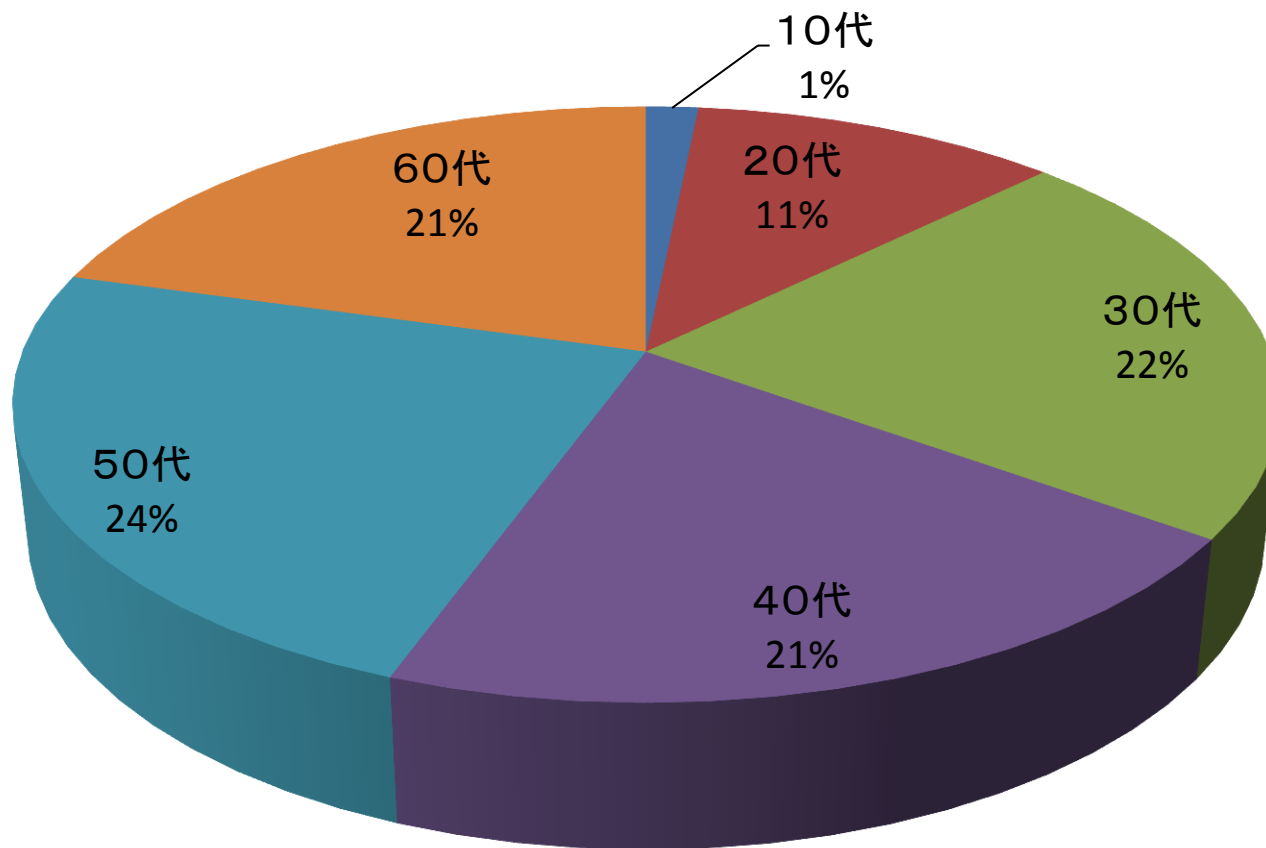
かがわ総合リハビリテーション 成人支援施設 生活訓練

- 定員 12名（現在登録15名）
- 生活支援員 2名（夜勤1名、日勤1名）
- 臨床心理士 0.5名
- 平成19年から主に高次脳機能障害の方対象
- 連携 **香川大学医学部附属病院**
（精神障害者手帳・年金申請）

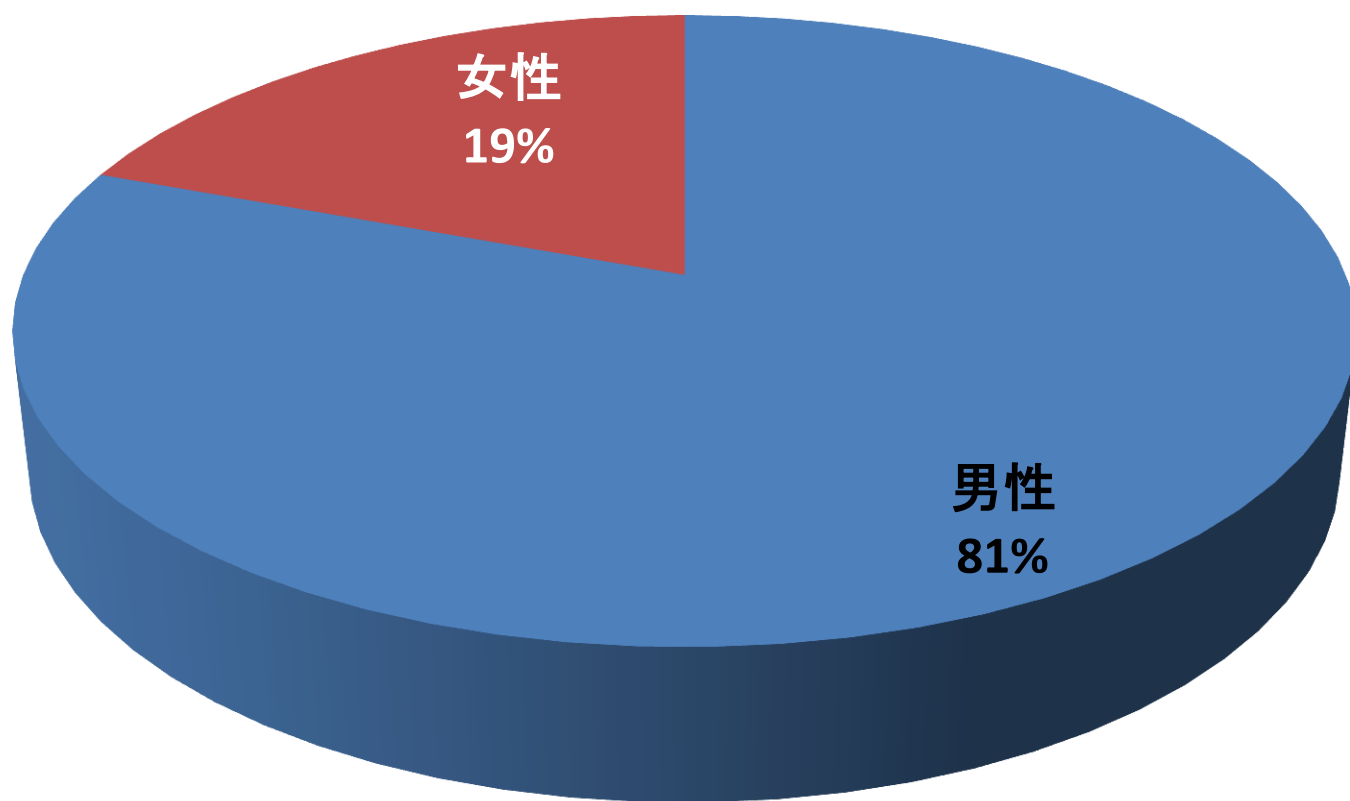


原疾患

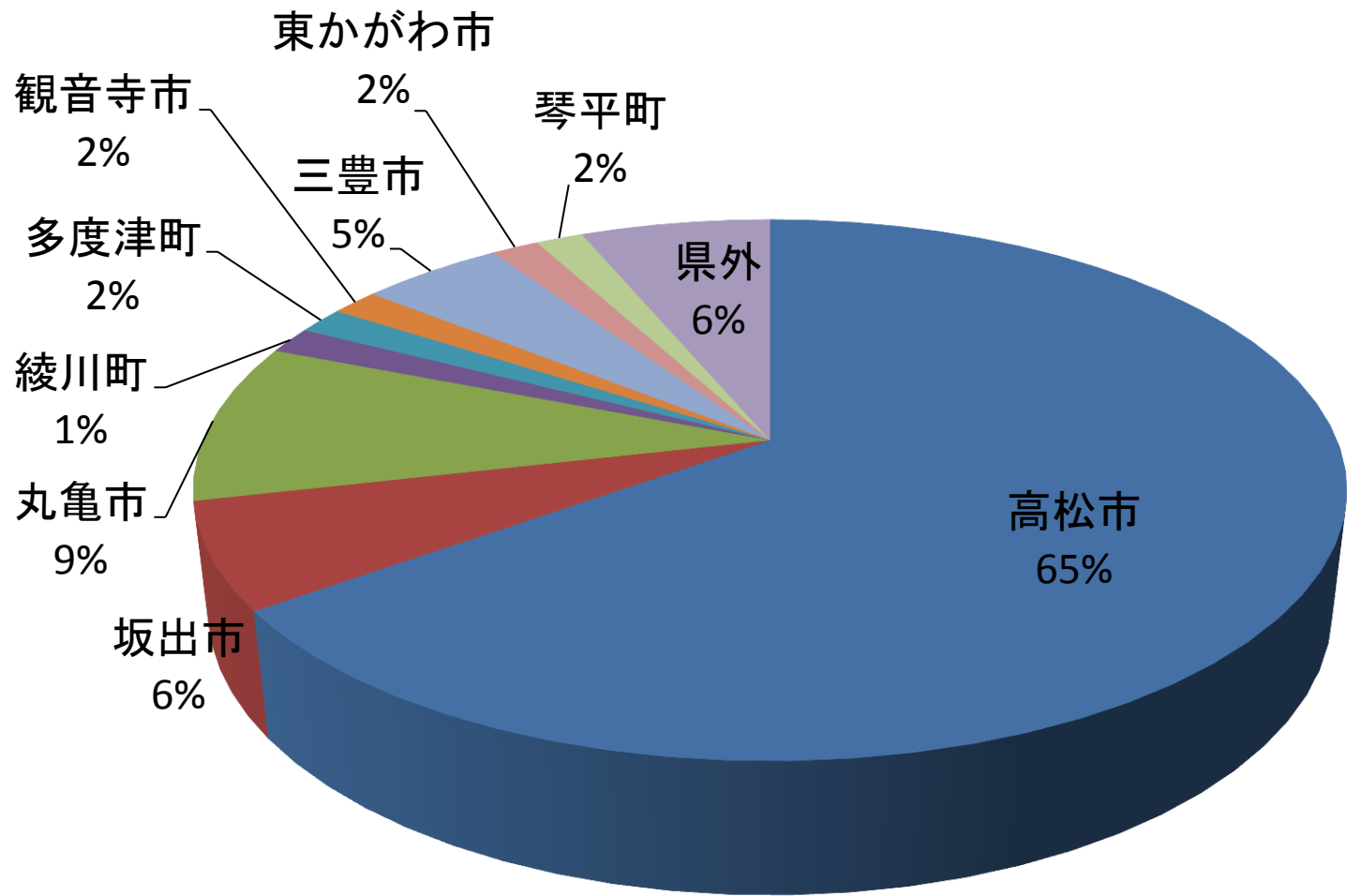
(H19年～H25年11月)



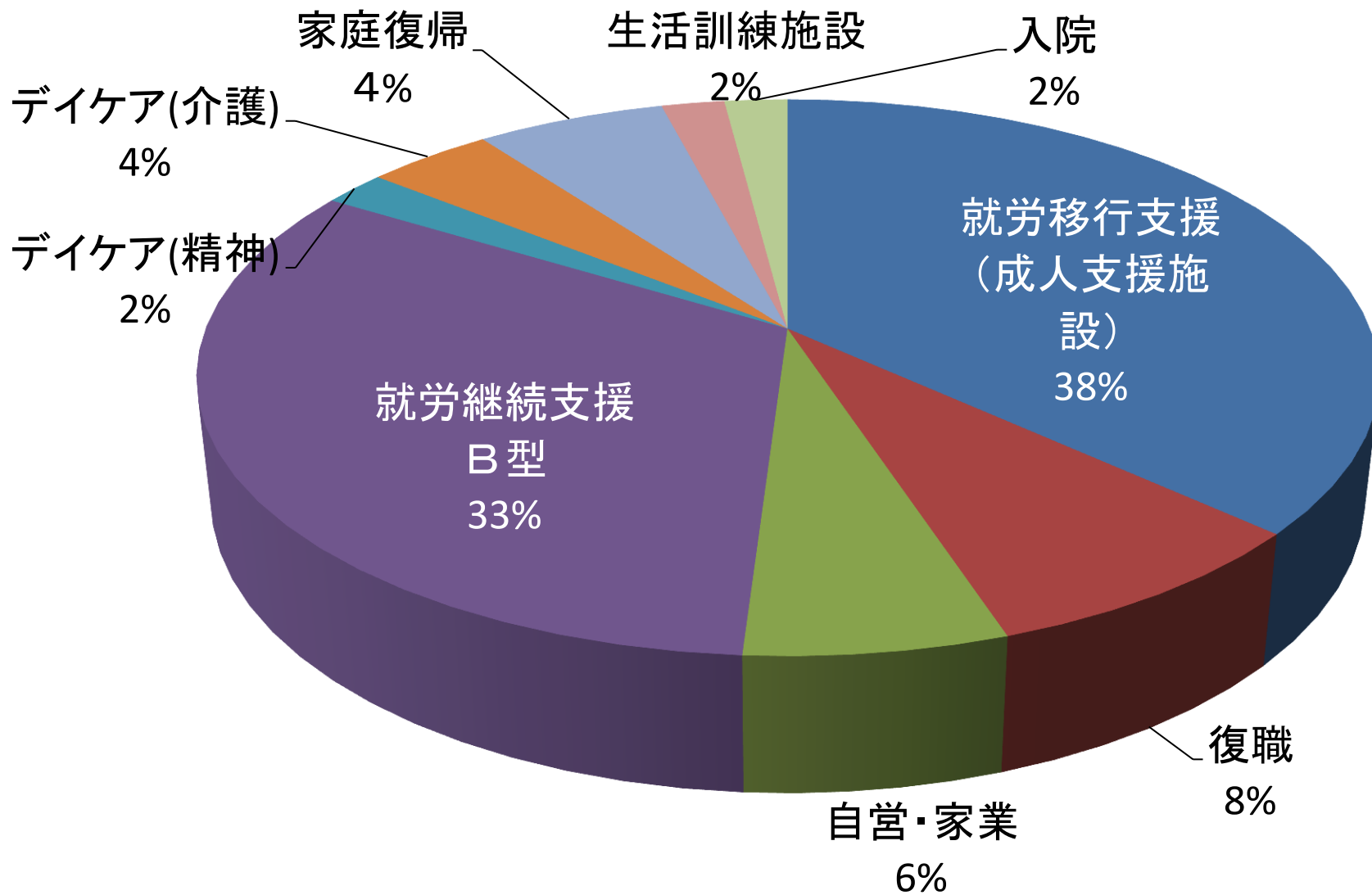
年齢層



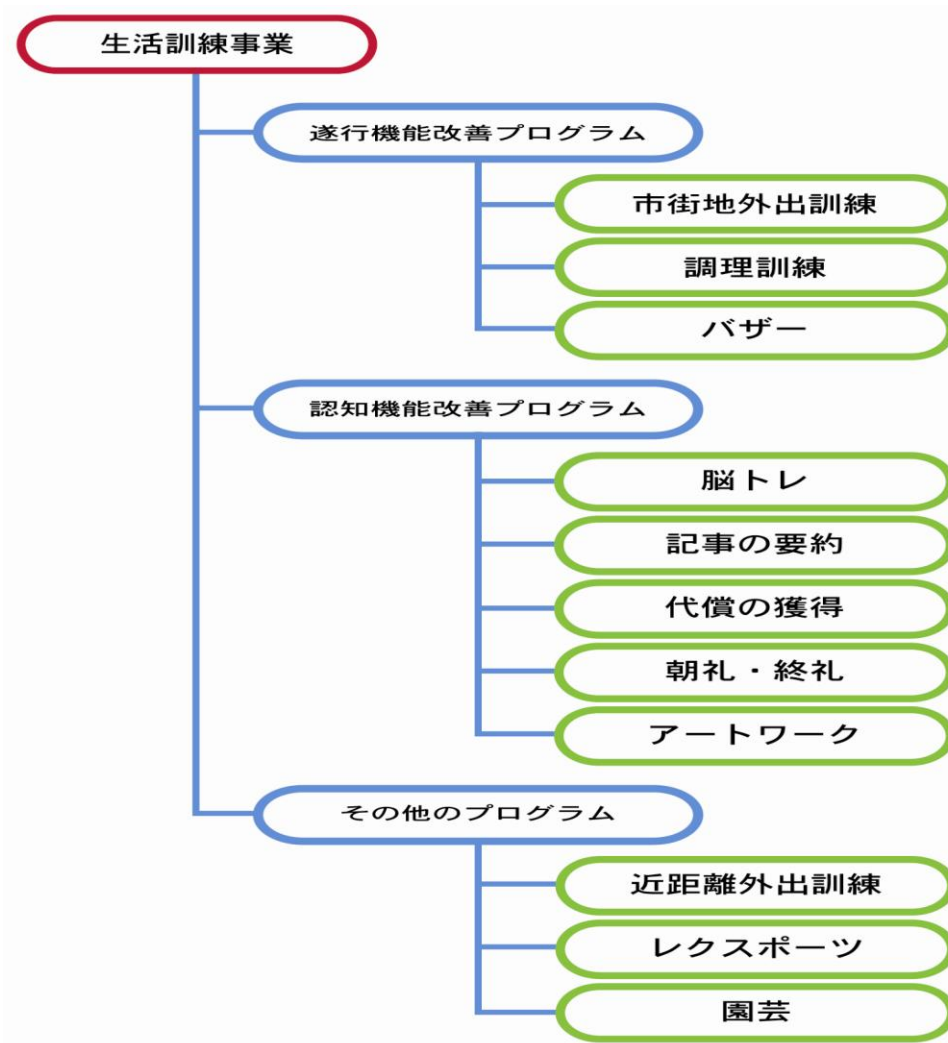
男女比



出身地



進路(利用終了者)



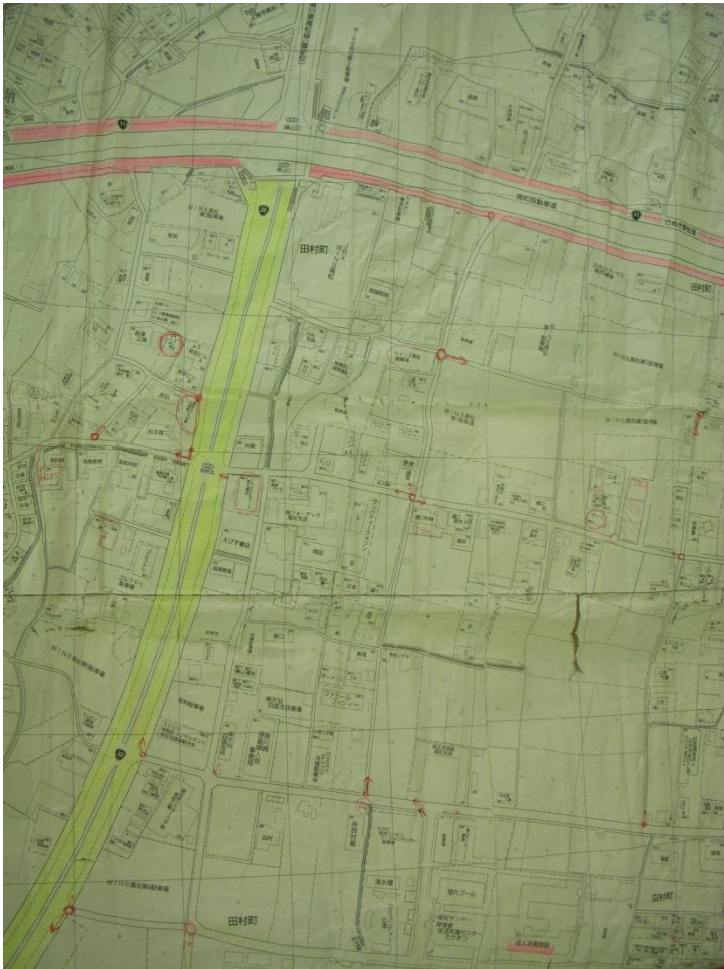
グループ訓練の内容

外出訓練

- 近距離外出訓練（週3回 45分程度）
住宅地図・写真カードを手掛かりに目的地まで歩く
安全性、集団行動、方向、方角
- 市街地外出訓練（月1回 10:00～16:00）
公共交通機関を利用して目的地まで行く
計画に基づいて一日を過ごす
- 個別外出訓練（適宜）
通所練習、通院練習

近距離外出訓練

住宅地図



訓練をとおしての変化

- 単独で施設から散歩にでかけることができるようになる
- 半側空間無視があることを意識し、注意力を高めることができるようになる
- 集団を意識し、待つことができるようになる
- 携帯アプリを使用し、行き方を調べてから外出するようになる

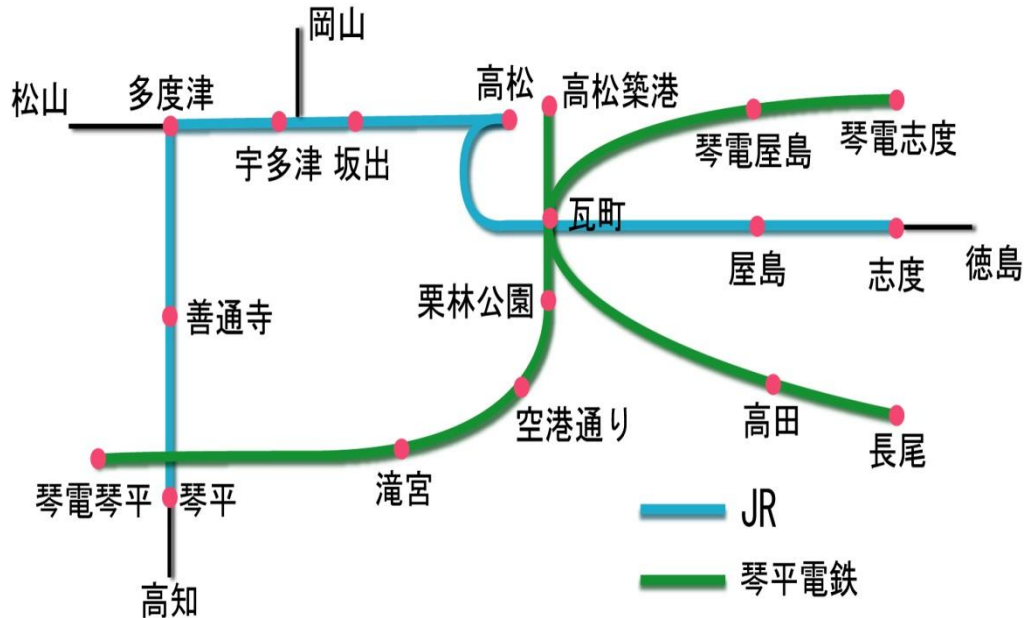
市街地外出訓練

(行き先:公園、寺、映画鑑賞、ボウリング、商業施設など)



- 目的地、使用する交通機関、時刻、料金、昼食場所、メニュー等を調べる
- インターネット検索をしたり、問い合わせの電話をかけることもあり

香川県のJR・私鉄(琴平電鉄)



- 本数が少ない、(JR各駅停車は更に少ない)
- 私鉄は距離に関係なく身体障害者手帳は割引対象
- 私鉄コトデンはイルカカードの使用可

香川県の路線バス



- 本数が少ない(1時間に1本の時間帯もあり)
- 整理券をとる→車内の運賃表を見て支払い
事前に料金を知らないと、かなりとまどう支払い方法
- 障害者手帳で割引あり
- コトデンはイルカカード使用可

市街地外出訓練

計画用紙(裏面に予算計画)

訓練をとおしての変化

市街地外出計画

平成 26 年 1 月 15 日
氏名

※目的地 「エッスボール」

ロビー集合 ()

養護学校前 (10 : 06) 発

||

(互町) (10 : 21) 着

(互町) (10 : 46) 発

|| 電志度線

(湯元) (10 : 58) 着

|| 徒歩 15分

目的地 エッスボール (11 : 13) 着
マカバ(マカバ)
ミズナ 納3時間

目的地 エッスボール (14 : 20) 発

|| 徒歩 15分

(湯元) (14 : 43) 発

|| 電車

(互町) (14 : 55) 着

(互町) (15 : 08) 発 13分

|| バス

養護学校前 (15 : 23) 着

○余暇活動として、利用者の方たちで調べて、映画鑑賞に出かける

○家から単独で交通機関を利用し、買い物に出かける

○訓練で行った場所を好み、休日に過ごす場所になる

個別外出訓練 ケース1

＜通所のための移動訓練
～利用から2ヵ月後＞

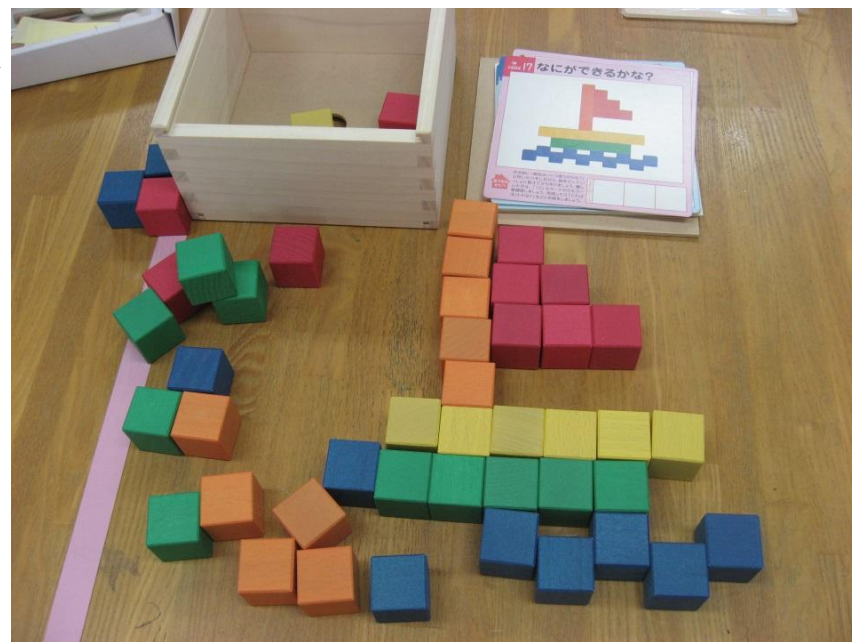
○自宅～A駅～B駅

○43歳、くも膜下出血、

左半側空間無視

身体障害者手帳2種3級
(左上肢3級、左下肢7級)

- 交通量の多い道路を歩いて駅まで行く
- 各駅電車に乗り、転倒等の事故なく降りる



半側空間無視を考慮した手立て



交通量や道路状況の確認

- 家から駅まで、行きも帰りも右側には溝など危険な所がないため、右側に沿って歩くよう支援する
- 家族とも確認。家族も練習に取り組む
- 一駅区間だったので立ったまま乗っておく



- 駅にある柱にぶつかる
- 降りる駅がきても動こうとしない
- 3回の付き添いで、自分で移動が可能になる

個別外出訓練 ケース2

＜受診のための移動訓練
～利用から11ヵ月後＞

○成人支援施設～

H病院

○45歳、くも膜下出血

県外出身

精神障害者手帳2級

近時記憶、記銘力の低下

言語指示での記憶に難あり

- 土地勘のないところで、バスを乗り継ぐ
- 乗り継ぎ時間に40分程度のロスができる



記憶障害に対する手立て

行き方カード(20枚)



行動パターンを決める

○乗り継ぎのロス時間の行動パターンを決めておき、迷子にならないようにする

○病院内も手順カードを使用する



- はじめは、バス内、乗り継ぎ場所周辺などで何回もカードを見て確認していた
- 3回でカードは不要となる

まとめ

～外出訓練に求められる力～

- 身体的適応、体力の向上
(失語があっても、補助手段でカバー)
- 注意力・記憶力の向上
- 地誌的能力の向上
- 時刻・時間の意識の向上
- 社会的行動障害の改善
- 緊急時の対応能力の獲得

架空事例

男性 27歳 外傷性脳損傷

高次脳機能障害(遂行機能障害、注意障害、記憶障害、退行)

精神障害者保健福祉手帳2級

眼球運動障害(右眼に複視、視野の狭さあり)

県外の専門学校を出て、そこで会社勤めをしていたが、事故を機に地元に戻る

家族構成 父(会社員) 母(パート事務)

弟(結婚し、近くでアパート生活)

就職のため、バスと電車を使い継いで通うことになる。高校生までは、主に自転車とバイクが移動手段。会社は、学校区の近くであり、通勤時はかなりの混雑が予想される。家から最寄りのバス停まで徒歩10分。バスから電車への乗り継ぎ時間は約15分。電車の駅までに階段あり。エレベーターあり。